

これからの新しい教育の方向 (次期指導要領) が公表されました!

文科省の諮問機関 (中央教育審議会) が2020年度から順次実施される次期指導要領を発表!

「次期指導要領 小中高で討論型授業 英語小5から教科 中教審が中間発表」このような見出しが、夏休み中の8月2日(火)の日本の新聞(読売)の一面トップを飾りました。新しい教育(学習指導要領)がまた始まろうとしています。小学校2020年、中学校2021年、高校2022年に本格スタートとなります。現在日本人学校で学ぶ子どもたちに直接関係する内容が多く含まれていますので、その新聞記事を抜粋してお知らせします。「…中間報告では、これからの子どもたちには、社会の進化を受け止め、発展させる資質・能力が必要だと指摘。『知識・技能』『思考力・判断力・表現力』『学びに向かう力・人間性』の育成を3本柱に掲げた。学び方については、小中高校の全教科に児童生徒が対話しながら課題や解決策を探る『アクティブ・ラーニング』を取り入れ、教師が一方向的に話す一斉授業からの転換を図る。学ぶ内容も大きく見直す。高校では、世界史Aと日本史Aを融合し、日本と世界の近現代史を学ぶ『歴史総合』や18歳選挙権を受けて主権者教育を行う『公共』などの必修の新科目を創設。理科と数学のわくを超えた選択科目『理数探究』なども新たに設ける。中学では歴史総合の新設に合わせ、近現代以前の世界の動きに関する学習を充実させる。小学校では歌やゲームで英語に親しむ5、6年生の『外国語活動』を3、4年生に引き下げ、5、6年生は正式な教科にする。情報教育も強化し、算数や理科などの中で、コンピューターを動かす手順を論理的に考える『プログラミング教育』を必修化する。特に英語は高校卒業までに、学ぶ単語数を現行の3000語から『4000語～5000語』に増やす。指導要領改訂に合わせて大学入試センター試験も衣替えし、20年度からは『大学入学希望者学力評価テスト(仮称)』を実施。思考力や表現力を問う記述式問題などを導入する。…」このような新しい教育の方向を先取りした教育を、カラカス日本人学校でも、今できることから順次始めたいと考えております。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その119)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です! NO. 14

「創立当時(1975年)の世界の日本人学校の多くは、「自宅授業」のようなものだった…」と書くと、驚かれますが、実際そうだったのです。当時、世界の日本人学校は草創期で、自前の校舎を持つ日本人学校は少なく、多くの日本人学校は民家などを間借りして、授業を行っていました。カラカス日本人学校も例外ではなく、初代と二代目の校舎は間借りでした。特に、二代目校舎はカラカスの町の中にあつた少し大きめの民家を借りて授業をしていました。民家のリビングや寝室、居室が教室だったのです。まさに「自宅授業」です。運動場はなく、民家の庭がその役目を担っていました。狭い庭で、みんなが場所を譲り合い、工夫あって遊んでいました。体育の授業は、バルケ・デル・エステで、運動会は近隣の現地の学校を借りて、実施していました。私も当時、ベルギーの日本人学校に勤務していましたが、状況は同じで、居室が教室、庭が運動場でした。民家ですから、一番大変だったのがトイレで、休み時間にはいつも行列が出来ました。きっとカラカスでも同様の光景があつたのではと想像ができます。当時のカラカス日本人学校のことを当時の子どもが作文に残しています。「…私はカラカスに来て2年半経ちます。パーシェフレスコの学校(注:初代校舎)は大きくて、広場のような芝生の所がありました。でも、急に引越すことになりました。いろいろな物を運んで大変でした。ほかに大掃除をしたり、ごみやいらぬ物をもやしたりもしました。11月になって新しい学校に行くことになりました。バスからおりたら、キンタ・カルメン(注:カスティジャーナの二代目校舎)という小さな学校でした。私はびっくりしました。というのは、運動場も教室も小さいからです。運動場が小さいので、1週間を学年ごとに分けて使っています。パーシェフレスコの学校の広場やロビーはとても広かつたので、今の学校とはくらべものになりません。今の学校の鉄棒は小さいものばかりだけど、前の学校では高くとても楽しく遊べました。…パーシェフレスコの学校は、今の学校の2倍、3倍はあると思います。でも、今度何年か経ったら、新しい広い学校(注:3代目アティージョ)が出来るので、私は早くその日が来たらいいと思っています。…」(写真:2代目校舎の学習発表会も、民家の普通の部屋で開催されました。そんな時代もあつたのです)

